

# EISHI を貫く総合的な学習の時間に

総合的な学習の時間（以下、総合）が新設され、学校での実践が始まったのは2000年でしたので、20年がたとうとしています。本校では総合の時間を「EISHI タイム」と呼び、全校テーマ「よりよく生きる」の下、それぞれの学年で探究する課題を1年「食と健康」、2年「職業」、3年「福祉」として週1時間ないし2時間の授業を行っています。EISHI は「体験する」「調べる」「提案する」「(課題や疑問を)持つ」「改善する」の英語の頭文字を取って「エイシ」と読みます。総合は正に体験で蓄えた情報を基に課題や疑問をもち、調べ、改善したり提案したりする学びの時間です。問題を解決していく過程を繰り返しながら、自分がこれだと決めた課題を探究し尽くす(EISHI を貫く)時間とも言えます。ちなみに校訓「英志(えいし)つらぬけ」(平成14年、創立30周年記念事業で制定)と同じ音で本校では誰もが耳になじんだ語句を採用したという経緯があります。

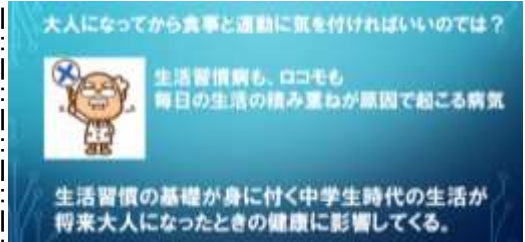
さて、各学年では探究課題を更に掘り下げ、次のテーマで年間50時間ないし70時間の学びを計画しています。

- 〈1年〉食を通して見つめ高める
  - ーなりたい自分をつくる食を考えようー
- 〈2年〉夢に向かって
  - ー『学ぶこと』『働くこと』を通して自分の生き方をみつめようー
- 〈3年〉みんなが幸せに暮らしていくために
  - ー福祉について考えようー

現在のところは「情報を蓄える」段階で、各学年では校内外の講師による講話や新聞等からの情報収集を通して、問題意識を高めながら、自分との関わりをみつめる活動を行っています。その一端を写真で紹介します。



栄養教諭による、テーマ「食物アレルギーって何？」で行われた講話の一コマ。給食での対応やアレルギーをもつ人への配慮を学んだ【1年】



養護教諭による、テーマ「栄養と運動のバランス」の講話のスライド。中学生期の食生活が将来の健康に大きく影響することを学んだ【1年】



片脚で椅子から立ち上がるロコモテスト【1年】



新聞から見える「働くこと」をテーマに記事を丁寧に探していく【2年】



「本気で働く」から連想されるキーワードをつないでイメージを広げていく【2年】

## 学ぶことと働くことをつなぐキャリア教育 EPISODE1

「キャリア教育」という言葉もすっかり聞き慣れたものとなり、学校以外にも広く知られるようになってきたように思われます。本校では今年度の重点「豊かな人間性の育成」で「男鹿に根ざしたキャリア教育の推進」を掲げています。

ところで、「キャリア教育」と「学力」はどのような関連があるのでしょうか。数回にわたり、本校の取組を紹介します。

キャリア教育で学習意欲を高める

今後10年から20年程度の間で、現在ある700余りの職業の半分はなくなり、子供たちは現在存在しない職業に就くことになる。アメリカの大学でこの衝撃的な発表がされたのは2014年でした。お子さんたちがこのような社会で生き抜くためにはどのような力が必要とされるのでしょうか。

このことが現実になるかどうかは別として、社会や職場で将来求められるのは次のような力だと考えます。

知らないことでも興味・関心をもち、予期しないことにも失敗を恐れず挑戦する力

学校では「目指す姿」として、生徒に育てたい力を端的に【みつめる】【かかわる】【すすむ】と呼び、次のように具体化しています。

- 【みつめる】 自己をよりよく見つめ、見通しをもち、自ら学ぶ生徒
- 【かかわる】 人や事物と関わって学ぶことのよさを実感し、協働で学びを深める生徒
- 【すすむ】 安定した前向きな感情をもち、よい行動を持続できる生徒

今回はこうした力を付けたいと考えた背景について紹介します。

